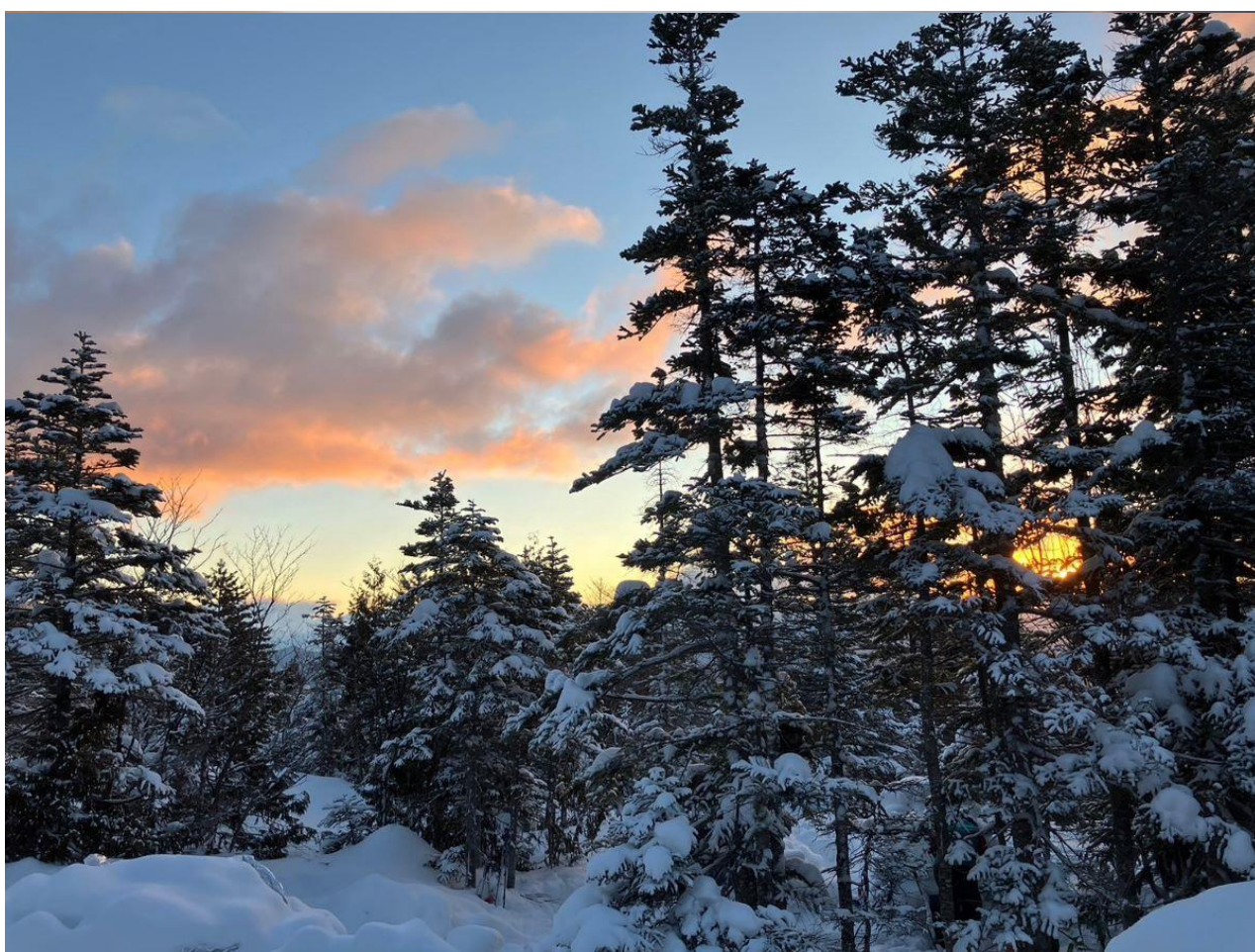


滋賀県勤労者山岳連盟

第48回定期総会

議案書



2024.2. 乗鞍高原

2024年3月3日(日)
大津市ふれあいプラザ

第 48 回定期総会次第

13:00	受付開始	受付
13:30	開会宣言 開会の挨拶	司会:山元 豊理事 友永芳和会長
	来賓挨拶 祝電、メッセージ紹介	久保典子氏 (全国連盟副理事長) 司会:山元 豊理事
	議長団選出 総会役員選出 議事運営委員報告 資格審査委員報告 第4号議案提案 選挙管理委員報告	司会:山元 豊理事 議長団 議事運営委員 山友・雪稜会 資格審査委員 ちごゆり 宮内眞子理事長 選挙管理委員 岳友会・オフトレイル
	第1号～第3号議案提案	宮内眞子理事長
	休 憩	
13:40	質疑討論	議長団、担当理事、宮内眞子理事長
	資格審査委員報告 採 決	資格審査委員 議長団
	選挙管理委員報告	選挙管理委員
	休 憩(第1回理事会開催)	
	第1回理事会報告	2024年度理事長
	議長、総会役員退任	議長団
	新旧役員挨拶	司会:山元 豊
15:30	閉会の挨拶 閉会宣言	友永 芳和 会長 司会:山元 豊理事

第1号議案 2023年度活動報告、会計決算報告および会計監査報告

(1)2023年度活動報告

2023年度活動報告は専門部ごとにP.6,8に掲載した。見開き左ページに**2023年度活動報告**を、右ページに**2024年度活動計画案**(第2号議案)を配置して、同じ専門部の活動報告と活動計画案を比較して読めるようにしている。2023年度の対面式代表者会議は2回(2023年11月 2024年2月)、対面式理事会は、代表者会議兼理事会2回・定期総会兼理事会1回の計3回開催しました。ZOOM理事会は、4月・5月・6月・7月・9月・10月・11月2回の計8回(8月・12月休会)理事会は計11回開催。代表者および理事の会議出席状況は資料集P.1を参照。また、会議記録は資料集P.5に掲載した。

(2)2023年度会計決算報告および会計監査報告

2023年度会計決算報告および会計監査報告はP.10に掲載のとおり。見開き左ページに**2023年度会計決算報告および会計監査報告**を、右ページに**2024年度会計予算案**(第3号議案)を配置して、決算報告と予算案を比較して読めるようにした。P.12に、本会計に連結する清掃登山会計決算報告/その他の会計決算報告を掲載した。

〔総括報告〕

紙面に限りのあることから、議案書では主要な点に絞って報告する。その他の事項に関しても忌憚のない質問と意見をお願いする。

1. 登山をめぐる情勢

1)登山をめぐる社会情勢

新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行後も、感染者は発生し後遺障害も含めてマスクを外して安心できる状況ではない。インフルエンザの予防とともに健康管理にはより一層の注意が必要である。

ロシアによるウクライナへの侵攻が続いている中で、パレスチナでも紛争が激化し一般市民の犠牲が拡大している。地球環境対策とは全く相反する武力行使が行われている上に大規模化した自然災害も世界各地で発生し、温暖化の影響が深刻になっている。

円安の影響でガソリン高や生活必需品の値上げが続き、世帯収入が増えない生活者には厳しい状態が続いている。

2)国内登山の情勢

山小屋をはじめとする宿泊施設では値上げとともに予約が必要になり、山行を計画する上で、新たな考慮が必要になってきた。国内主要山岳四団体で共同運用を開始した登山届出システム「コンパス」は、全都道府県との提携を目指している。「伊藤新道」の再開通など、新たな登山道整備も始まり登山者数はコロナ前に戻ってきている。

山岳遭難事故は過去最高を更新して増え続け、ネット情報の氾濫と利用方法について課題となってきた。

2.組織強化と拡大の活動

2024年1月末の滋賀県連の会員数は182名で前年同期に比べて11名の増加となった。(資料集P.2参照)。滋賀労山の活動を継承するためにも、次世代会員の勧誘を課題に取り組む。2024年度も新たな試みに前向きに挑戦していく。また、次世代会員を迎え入れる組織体制の改革にも取り組んでいきたい。

全国連盟の会員数は2023年11月末の組織数調査で563団体16624名となり、前年に比べ190名の減となった。この減数は2014年からの過去9年間最小の減数である。

会員数の減少が少なかったのは、その観点に沿って活動を行ってきた地方連盟・会クラブの取り組みによるものといえる。

全体から個々の特徴をとらえると、190名の減数のうち、30名以上の減数が5地方連盟で合計201名。増数と減数無しの地方連盟が24で合計134名、46地方連盟の52%の約半数強の地方連盟が会員を増やしたことになった。

3.主要行事

1)清掃登山

2023年の清掃登山は、5月27日、28日 6月3日、4日の4日間、県内9域13コースで実施した。事故もなく無事終了した。4日間の参加人数は208名(会員109名 一般大人91名 子供8名 前年合計168名)、登山道から回収されたゴミ量は、合計182.45kg(前年171.95kg)でした。実施報告書を自治体・企業に送った。自治体(米原市・竜王町・多賀町)からの補助金、協賛企業(「近江湖南アルプス自然休養林」運営協議会・公益財団法人 滋賀県環境事業公社・江若交通株式会社・アルピナBI(株)びわ湖バレイ事業所・帝産湖南交通株式会社)からの支援金等の協力していただいた。なお、全県的に自治体と連携して清掃登山を実施しているのは全国でも滋賀県だけである。

2)登山祭典

2023年度の登山祭典は10月22日(日)に6会場で行われ、会員70名、一般48名、計118名の参加があった。(2022年 会員62名、一般37名 計99名) 登山祭典は、山岳会に入って山登りをすることの楽しさや安全な登山を、未組織登山者に知ってもらう良い機会、広く一般参加を呼びかけていく必要がある。

3)交流山行

4年目になる交流山行を14回企画9回実施したが、他会からの参加が少ない状況になっている。2024年度は、会からの例会以外にも、個人山行を交流山行として県連ニュースで掲載する方向にして、交流が図れるよう継続する。

4)講習会・初級登山教室を企画して実施

○講習会 3月5日「計画に生かす読図」座学と実技2回 3月18日、19日をセットで実施した。

○会員対象(入会条件で一般募集をした結果、4名の新入会員増につながった)

「初級登山教室」4月～10月 座学7回・実技10回 受講生5名で実施した。

○一般も対象に「初級読図コース」4回シリーズ(単発参加可能)を実施した。

4. 遭難対策の現状と課題

① 国内の山岳遭難概況

2022年の警察庁による山岳遭難者数は(前年+431人)3,506人。発生件数は(前年+380件)3,015件。発生者数・遭難者数共に統計の残る昭和36年以降最多となった。死者・行方不明者は(前年+44人)327人となり増加したが、死亡・行方不明者327人の内(前年-2人)26名が行方不明者で前年より減少した。負傷者1,306人(37.3%)無事救出者1,873人(53.4%)。遭難者のうち60歳以上が1,486人と全体の50.7.3%。死亡・行方不明者では60歳以上が231人と全体の70.6%を占めている。40歳以上の中高年の登山志向は継続し、こうした傾向は過去5年間変わってなく65歳以上の前期高齢者の遭難者数も増加傾向にある。遭難の原因は、道迷いが最多で1,280人(36.5%)で、転倒、滑落、病気、疲労、転落が続いた。2022年は、転倒(602人17.2%)の事例が多く前年より増加した。その他として悪天候98人、野生動物による襲撃も38人いた。

② 労山内の山岳遭難概況と対策

2023年は死亡・行方不明者が7名(11月1日現在)

事故件数は293件、事故者数は298人。(11月1日現在)

遭難対策部会での行事・集会について、2月「全国雪崩講習会」、7月「全国救助技術交流集会」、9月「若手クライミング講習会」、10月「全国登山学校担当者交流会」は予定通りの開催ができた。「全国雪崩講習会」は16名の参加で開催され、雪崩テキスト改訂版発行の内容確認の為の実技講習やビーコンパークの検証も実施した。「全国救助技術交流集会」は、北海道道央地区の主管で開催され、11地区連盟37名が参加した。道央地区救助隊により、最新の組織レスキュー技術の交流と兵庫・大阪の合同チームによるチームデモが行われた。「若手クライミング講習会」は、受講生14名、講師・スタッフ11名の総勢25名で開催した。初日は所定の内容を行えたが、2日目は、雨の為マルチピッチの登攀が行われず東屋にて班ごとに分かれての講習となった。講師間での技術指導に合意が図られず今後の課題となった。「全国登山学校担当者会議」は、23名の参加して、栃木県連の主管で開催された。初日は、ハイキングでのロープ使用について、UIAAの総合登山技術ハンドブックから内容紹介と各地で開催されている登山学校の状況や課題等が持ち寄られ参考になる内容や今後の課題が整理できた。2日目は、栃木県連所属の会で発生した岩場通過の為の岩登り講習会で、起きた滑落事故の検証を事故現場に行き、参加者全員で検証した。岩場通過の為の岩登り講習会の位置づけや安全対策、指導内容等再発防止の課題や提言を参加者で確認できた。

その他の活動として、(公社)日本山岳・スポーツクライミング協会が取得した国際山岳連盟認定の上級夏山リーダー検定の講師養成講習会に2名がオブザーバー参加した。また、各県連での講習会・研修会に遭難対策部員や全国理事を講師派遣し遭難対策活動を行った。

滋賀労山では、2023年1月～12月の期間に事故一報を3件提出した。

滋賀県警察本部によると、去年1年間に、県内で発生した山岳遭難は86件、この10年間でもっとも多い。遭難の原因は、▼道迷いがもっとも多く37件、次いで▼転倒が19件、▼滑落が12件など。遭難した人はあわせて109人で、このうち4人が死亡し、38人がけがをした。年齢別にみると、▼50代がもっとも多く29人、次いで▼40代が15人、▼70代が14人、▼20代と60代が13人。また、遭難した人の8割近くが登山届を出していなかった。

滋賀県警察本部地域課は「遭難の背景には、登山コースの確認など、事前の準備不足がある。地図やヘッドライトなど十分な装備を用意して、必ず登山届を提出し、自分の体力を過信せず、余裕をもって行動してほしい」と呼びかけている。

第2号議案 2024 年度活動計画

組織部を始めとする各専門部の 2024 年度の活動計画案を P.7,9 に掲載した。
自然保護憲章の第 1 章「登山活動を通して、自然を見る目を養い、自然の変化を捉え、山と地球規模の環境保全に寄与します」との原点を軸に各部とも活動する。

第3号議案 2024 年度会計予算案

2023 年度活動報告をふまえ、2024 年度会計予算案を P.11 に提案する。

第4号議案 2024 年度役員選出

滋賀県勤労者山岳連盟規約第10 条1に基づき、2024 年度役員を選出を提案する。選出すべき役員は、会長1名、副会長1名、理事 10 名前後、会計監査2名である。

2023年度活動報告

部 門	
組 織	○会員増大に向けて 3年間悩まされてきたコロナ禍も5月からの5類への移行に伴い、やや心配しながらも移動や集会などアウトドアで自由を楽しむことができるようになった。県内においても、湖岸エリアでのキャンプが盛んで週末となれば多くのテントが立ち並ぶようになり、ファミリーや若い人たちがアウトドアライフを楽しんでいる。 滋賀労山の総会員数は182名(2023年12月末)、前年比較で11名増えた。多方面の広報活動の効果があったと思われる。
	○登山祭典 10月22日(日)、天候に恵まれて県内山域の6会場で開催。6団体合わせての参加者数は、合計118名(会員70名・一般48名)(昨年対比+19名)と大成功のもとに終了した。
	○交流山行 企画数が増え、県内だけでなく、海外登山の企画も生まれ実施された。参加された会員の満足度は高かった。(資料集P41)
	○チラシ配布(清掃登山・登山祭典)等で、会員拡大に努めた。
教育・遭対	○登山教室、講習会などの開催 2023年度初級登山教室(受講生5名、座学7回、実技10回)を実施した。初級読図コース(全4回、会員外のべ10名、会員のべ7名参加)実施した。「計画に生かす読図」講習会を総会当日の午前中に座学講座に実技(3/18または.19)をセットで企画実施した。
	○遭難対策訓練 11月12日県連単独で初めて、ハイキングレスキュー講習会を実施した。 会場:皇子が丘公園・千石岩近辺、会員15名、スタッフ13名 計28名が参加した。
	○第42回近畿ブロック搬出技術講習会 4月2日 京都・滋賀主管で山科大文字山付近で「初級コンパニオンレスキュー搬出技術講習会」を担当する。(受講生47名 講師・スタッフ23名)参加。滋賀労山単独では、受講生8名、講師・スタッフ6名が参加した。
自然保護	○第51回クリーンハイク(清掃登山) 5月27日(土)、28日(日)および6月3日(土)、4日(日)に 県内9山域、13コースで計画して実施した。参加者は208名(会員109名、一般大人91名、子供8名)で、回収したゴミは182.45kgだった。
	○登山道の放射線量測定 昨年度に引き続き放射線量測定をした。11/11に高島トレイル赤坂山～寒風、8か所で実施。結果を比良雪稜会実施分と併せて 全国連盟自然保護部へ報告した。比良雪稜会は、11/3にイン谷～八雲ヶ原～荒川峠～中谷出合い～金毘羅神社の登山道、11か所で測定した。(2014年度から実施今年度10回目)
	○近畿ブロック自然保護委員会 近畿ブロック自然保護委員会は2ヶ月ごとにZOOM会議で開催、参加した。
	○全国自然保護担当者会議 6月17日～18日、埼玉県長瀬町で開催。比良雪稜会会員1名が参加。

2024年度活動計画(案)

部 門	
組 織	○会員増大に向けて 会員の高齢化に伴い、更なる会員数減少が予測されるなか、今年度も会員数増大に向け取り組んでいきたい。数年前からのアウトドアブームで、「ぼっちキャンプ」という言葉が生まれてきたり、ファミリーでのキャンプ、また若い女性の登山などの傾向は確実に増えてきている。県連も各会からの要望を受けとめて、楽しさや健康推進をキーワードとした発信をしっかりと行っていくようにしたい。
	○4月13日(土)「やまとけいこさんの講演会」企画実施。
	○登山祭典 県内の山城を会場とした「登山の祭典」とし、10月の各週末で各会が設定した日程で実施していく。県連としてはチラシを作成し広く一般募集をしていく予定。
	○交流山行 昨年までは、どの会の山行にも参加できるシステムが「交流山行」としてきた。今年度は、これまで通り各会企画の交流山行とするか、会員個人で企画した山行にもどんどん参加できるように県連ニュースで発信していく。
	○山岳会インスタグラム、チラシ配布等、会員拡大に努める。
	○登山教室、講習会などの開催 他県の労山と協力した教育を図る。 1.3 月3日の午前中に「読図講習会」を企画3回シリーズ(3/31,4/27)に座学と実技セットで実施する。 2.2024年度初級絵登山教室は、内容を精査して昨年に引き続き3年目は実施する。
教育・遭対	○遭難対策訓練 1.4月6日ハイキングレスキュー講習会(近畿ブロック搬出技術講習会を充当する) 2.11月10日 ファーストエイド講習会(応急処置)を企画実施する。
	○全国連盟推奨「山筋ゴーゴー体操ONEDAYサポーター要請講座」実施予定
	○第43回近畿ブロック搬出技術講習会 4月7日近畿ブロック搬出技術講習会(主管・兵庫・奈良)実施。別途 京都・滋賀は、前日の4月6日に「初級ハイキングレスキュー搬出技術講習会」を山科大文字山付近で昨年同様の内容で実施予定。
	○第52回クリーンハイク(清掃登山) 5月25日(土)、26日(日)、6月1日(土)、2日(日)に県内主要山系で、県連・加盟各会および地元自治体、関係諸団体の協賛・後援を得て実施する。 ・登山道周辺の清掃活動のみならず、自然保護活動としてのハイキングとして実施する。
	○登山道の放射線量測定 引き続き放射線量測定を実施する。県連ニュースを通じて、会員参加を呼びかけて、関心を持って貰えるように努力する。
	○近畿ブロック自然保護委員会 近畿ブロック自然保護委員会は、ZOOM会議若しくは実地会議に参加して情報交換等行う。
自然保護	○全国自然保護集会 千葉県連が主管 11月16日～17日 開催地未定

2023年度活動報告

部 門	
自然保護部	<p>○滋賀県域や近辺等でのメガ風力発電への対応</p> <p>滋賀県域の山地で「余呉・南越前第一第二ウインドファーム事業」は平成30年から事業計画の手続きがされ、手続きが進行中であり、これとは別に「三十三間山風力発電事業」が令和4年手続きが開始され、今年度滋賀県知事の最終意見書が国に提出された。両事業とも貴重な山岳の自然環境や景観等を損なうことは間違いないことであり、先に計画された美浜新庄ウインドファーム事業も含めて地元山岳団体として、県連メーリングリスト等により問題意識の共有や他団体の取り組みとも連携を試みた。</p>
財 政	<p>○健全財政の維持</p> <p>コロナ禍が収まり、しばらく停滞していた県連の活動も、徐々にではあるが再開が見通せる状況となった。財政としては、活動費を確保する必要があるため、今年度は『連盟費の減額』や、『連盟費の一部還元』といった各会に直接影響を及ぼす策は講じなかった。しかしながら、支出については、費用対効果を十分見極めた上で対処し、健全財政の維持に努めた。</p>
機関紙	<p>○県連ニュースの継続的発行</p> <p>県連ニュースを毎月発行した。担当者の編集負担の軽減策としてPDFの連結方式での編集にした。</p> <p>機関紙を全会員で発行するとの観点で、昨年引き続きレーエッセーは各会に執筆をお願いした。(4月理事長、5月湖南岳友会、6月比良雪稜会、7月山の会オフトレイル、8月ちごゆり山歩会、9月シャクナゲ溯行クラブ、10月滋賀山友会、11月湖南岳友会、12月比良雪稜会、1月会長、2月山の会オフトレイル、3月滋賀山友会)</p> <p>登山祭典、交流山行などの企画は山行記録の投稿が多くなり紙面が充実したものになった。</p>
ホームページ	<p>○HPを活用して会員拡大に努めた。</p> <p>1. 県連ニュースに同期した更新をした。 2. 県連活動の「初級登山教室」「清掃登山」「登山祭典」「交流山行」の募集を掲載して、一般参加を募った。</p>
クライミング研究会 滋賀 (CSS)	<p>○メンバーを再登録して従来のCSSを再編し、活動を行った。</p> <p>登録者19名(2023/12現在)、各会単独で企画しにくいバリエーション山行を、登録者の企画により会横断的に呼びかけた。</p> <p>○登攀の技術検証、ロング縦走、沢登りを実施。</p> <p>○県連ニュースで活動内容を広報した。</p>
山スキー ネット滋賀	<p>○安全なスキー山行の実施</p> <p>ゲレンデスキー・山スキーにおいて天候・積雪状態などに留意し、安全なスキー山行に努めました。(山行一覧表山行)</p> <p>○山スキー教室の実施</p> <p>山スキー初心者から経験者までを対象に山スキーを安全に楽しむため山スキー教室を行いました。</p>

2024年度活動計画(案)

部 門	
自然保護部	<p>○滋賀県域や近辺でのメガ風力発電への対応</p> <p>滋賀県域の山地で「余呉・南越前第一第二ウインドファーム事業」建設予定地のスキー場跡地から土砂の流出が続き流末河川の濁水が治まらないこともあり、事業の進捗は流動的と思われる。「三十三間山風力発電事業」、先に計画された美浜新庄ウインドファーム事業も含めて地元山岳団体として、他団体の取組との連携や会員の問題意識の共有に引き続き取り組む</p>
財 政	<p>○健全財政の維持</p> <p>各会の会員数の減少に伴い連盟費も年々減少傾向にある。費用対効果を慎重に見極め有効に連盟費を使用することで、県連の活動を資金面からバックアップするとともに、引き続き経費削減に努め健全財政を維持していく。</p>
機関紙	<p>○県連ニュースの継続的発行</p> <p>県連ニュースを毎月遅滞なく発行する。毎月15日原稿締め切り、20日発行・配信する。そのため原稿の執筆基準は守っていただくよう、随時お願いする。原稿はワード(エクセル)とPDFで、送信先は、理事長及び機関紙担当(2名)にお願いする。</p> <p>機関紙を全会員協力のもとに発行継続する。昨年同様リレーエッセーを(4月理事長、5月湖南岳友会、6月比良雪稜会、7月山の会オフトレイル、8月ちごゆり山歩会、9月シャクナゲ溯行クラブ、10月滋賀山友会、11月湖南岳友会、12月比良雪稜会、1月会長、2月山の会オフトレイル、3月滋賀山友会)にお願いする。リレーエッセー・写真担当共 裏表紙に次月号担当会を記載。</p> <p>県連ニュースで掲載した山行案内は、実施報告を掲載する</p>
ホームページ	<p>○HPを活用して、会員拡大に努める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 山岳会に所属するメリットをアピールする内容にしていく。 2. 「体験山行」案内を県連HPでお知らせする。 3. 県連ニュース発行に同期した更新を行う。 4. 県連活動を知ってもらうために、「清掃登山」「登山祭典」「交流山行」案内を掲載し、会員拡大に努める。 5. 入会希望者対象の「イベント」「講習会」等の案内を積極的に広報し、会員拡大に努める。 6. 各会からホームページへの要望があれば、できる範囲で対応する。
クライミング研究会 滋賀(CSS)	<p>○昨年度に引き続き、登録者企画によるバリエーション山行、技術検証を実施する。</p> <p>○ 県連ニュースで活動内容を広報する。</p>
山スキー ネット滋賀	<p>ゲレンデスキー・山スキーにおいて天候・積雪状態などに留意し、安全なスキー山行に努めます。</p> <p>○山スキー教室の実施</p> <p>山スキーを安全に楽しむため山スキー教室を行います。スキー技術の向上と併せてビーコン操作練習や弱層テストの実施など雪崩事故を防ぐため安全管理に努めます。</p>

収入の部				支出の部			
項目	予算	決算	備考	項目	予算	決算	備考
前期繰越金	351,251	351,251		全国連盟費	280,560	280,560	
県連盟費	818,400	864,000		連盟費(130円×166×12)	258,960	258,960	
連盟費(400円×12×166)	796,800	842,400		年会費(3,600円×6)	21,600	21,600	
年会費(3,600円×6)	21,600	21,600		近畿ブロック(35円×166)	5,810	5,810	
雑収入	0	5		専門部費	200,000	48,502	
受取利息	0	5		教育・遭難対策	150,000	25,955	講習会補填 (ハイキングレスキュー 座学)
	0	0		組織	20,000	13,220	登山祭典等チラシ 講演会準備
推進費(労山基金)	14,200	14,600		機関紙	10,000	-	ネット配信
	0			自然保護	20,000	9,327	清掃登山補填 放射線量測定交通費
				会議費	140,000	96,797	
				全国連盟他	10,000	-	
				近畿ブロック	10,000	3,960	近プロ代表者会
				県連総会	50,000	40,613	参加者茶 理事弁当 会 場費 印刷代 他
				理事会・各会代表者会	70,000	52,224	ZOOM契約更新 25千円
				講習会参加補助	100,000	47,322	搬出訓練 初級登山 雪崩講習 他
				事務局費	45,000	22,870	
				事務消耗品費	25,000	9,725	
				図書費	5,000	-	
				事務局費	15,000	13,145	含 滋賀民報5千円
				通信費	10,000	3,844	
				電話料	5,000	2,718	
				郵送料	5,000	1,126	
				事務所維持費	68,000	67,200	
				家賃	68,000	67,200	オフィス+ネット=56百円/月
				その他	-	-	
				遭難対策基金積立	14,200	14,600	
				予備費	-	-	
				各会還元	-	-	
				次期繰越金	320,281	642,351	
合計	1,183,851	1,229,856		合計	1,183,851	1,229,856	

〔特別会計(積立金・預け保証金等)〕

項目	前期繰越金	当期取崩し金	当期積立金	当期利息	残高
事務所積立金	316,076	0	0	2	316,078
事務機積立金	316,893	0	0	2	316,895
遭難対策積立金	1,106,459	0	14,600	10	1,121,069
清掃登山特別会計	384,631		0	2	384,633
合計	2,124,059	0	14,600	16	2,138,675

会計監査報告

監査の結果、上記の通り相違ないことを認めます。

2024年 2月 日

会計監査

第3号議案:2024年度会計予算案

単位(円)

		支出の部				
科目		科目	2023年度予算	2023年度:決算	2024年度予算	対前年度予算比
前期繰越金	642,351	全国連盟	280,560	280,560	297,720	106.1
県連盟費	871,200	連盟費(130円×177×12)	258,960	258,960	276,120	106.6
県連盟費(400円×12×177)	849,600	年会費(3,600円×6)	21,600	21,600	21,600	100.0
年会費(3,600円×6)	21,600	近畿ブロック会費 @35円	5,810	5,810	6,195	106.6
雑収入	0	専門部費	200,000	48,502	340,000	170.0
	0	教育・遭難対策	150,000	25,955	150,000	100.0
	0	組織	20,000	13,220	140,000	700.0
推進費(労山新特別基金)	15,000	機関紙(HP契約)	10,000	0	30,000	300.0
		自然保護	20,000	9,327	20,000	100.0
		会議費	140,000	96,797	140,000	100.0
		全国連盟、他	10,000	0	10,000	100.0
		近畿ブロック	10,000	3,960	10,000	100.0
		県連総会	50,000	40,613	50,000	100.0
		理事会、代表者会(ZOOM)	70,000	52,224	70,000	100.0
		講習会参加補助	100,000	47,322	150,000	150.0
		事務局費	45,000	22,870	40,000	88.9
		事務消耗品費	25,000	9,725	20,000	80.0
		図書費	5,000	0	5,000	100.0
		事務局費	15,000	13,145	15,000	100.0
		通信費	10,000	3,844	10,000	100.0
		電話料	5,000	2,718	5,000	100.0
		郵送	5,000	1,126	5,000	100.0
		事務所維持費	68,000	67,200	68,000	100.0
		家賃(5,600円/月)	68,000	67,200	68,000	100.0
		その他	0	0	0	0.0
		遭難対策基金積立	14,200	14,600	15,000	105.6
		能登半島地震義援金	0	0	100,000	
		各会還元	0	0	0	
		次期繰越金	320,281	642,351	361,636	-
合計	1,528,551	合計	1,183,851	1,229,856	1,528,551	129.1

2023年度 本会計に連結するその他会計決算報告

1. 第51回(2023年)清掃登山収支報告書

2023.12.29

収入の部			支出の部		
科目	金額(円)	摘要	科目	金額(円)	摘要
補助金	55,000	実績報告後受領	宣伝費	8,840	案内ちらし、しおり、リーダーの手引き作成
広告収入	10,000	岩と雪	備品代	3,547	ゴミ袋、軍手等
参加費(保険代)	8,700	87人×@100	事務消耗品	4,650	コピー、インク代他
補填	7,167	本会計から	郵送費	14,630	案内チラシ、しおり等送料
			交通費	39,600	交通費補助
			保険代	9,600	傷害保険
合計	80,867		合計	80,867	

*参加者208名(会員109名、一般91名、子供8名)

2.2023年度初級読図コース

2024.1.17

収入				支出		
科目	収入	決算	備考	科目	決算	備考
参加費・一般	10,000	10,000	延べ10人	交通費	2,260	
参加費・会員	3,500	3,500	延べ7人	ボランティア協力金	4,000	4日間
				事務費	445	コピー代
				保険代	1,600	
				余剰金	5,195	
合計	13,500	13,500		合計	13,500	

3.2023年度「座学・実技講習会」2023.3/5.3/19.3/21

2024.1.17

収入				支出		
科目	収入	決算	備考	科目	決算	備考
参加費・座学	1,500	1,500	500×3名	交通費	10,820	
参加費・実技	6,000	6,000	1000×6名	ボランティア協力金	3,000	3日間
補填	7,970	7,970		コピー代	1,650	
合計	15,470	15,470		合計	15,470	

4. 2023年度ハイキングレスキュー講習会

2024.1.17

収入				支出		
科目	収入	決算	備考	科目	決算	備考
補填(教育遭対予算)	23,180	23,180		交通費	19,520	スタッフ11人
				コピー代	3,660	
合計	23,180	23,180		合計	23,180	

全国連盟安全対策基金 決算報告

2023年度初級登山教室

2024.1.17

収入				支出		
科目	収入	決算	備考	科目	決算	備考
受講料	125,000	125,000	受講生5名	交通費・座学	33,100	7回 5名分
安全対策費	100,000	100,000	全国連盟	ボランティア協力金	7,000	1名分
交通費実費収入	6,300	6,300		交通費・実技	73,990	10回 6名分
単発座学受講料	1,000	1,000		ボランティア協力金	64,000	
				事務費	6,775	コピー代
				会議室代	2,780	
				備品代	5,099	ナースコール
				事務局費	1,950	事務局駐車場代
				次年度繰越金	37,606	テント補修費として
合計	232,300	232,300		合計	232,300	